

会社データ

●株式会社東京穀物商品取引所
 創業年：1952年（昭和27年）
 代表者：渡辺好明
 事業内容：商品または商品指数についての先物取引および商品についての実物取引を行うために必要な商品市場を開設運営
 資本金：12億3,000万円
 売上高：非公開 従業員数：非公開
 所在地：東京都中央区日本橋蛸船町1-12-5
 電話：03-3668-9311
 URL：
<http://www.tge.or.jp/japanese/index.shtml>



東橋正面

まちびと

紳士録

#004

おがさわら 小笠原メリアン

1958年、仏ラロシェルで生まれる。アメリカ西海岸の小学校を卒業。その後も父親の仕事で米、日本などを転々とした。趣味は西洋凧(たこ)カイトと家庭菜園。今はミツバチの巣箱を見ている時が一番幸せという。家族は夫と母。好きな店・おススメ：下町ならではの温かみが魅力の人形町。マタニティーショップ「ジョリー」は大きめサイズの品ぞろえが豊富で、おしゃれなインポート服も多く、お気に入りの店。



東京 日本橋

ますづくりネットワーク 4

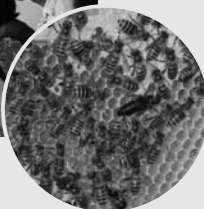
●日本橋めぐりの会 遠藤梨栄

日本橋界隈を舞台に、まちづくりに取り組む人々とその活動などを紹介。まちを愛し、奮闘する「まちびと」の輪をリレー形式でつなぐ。



人形町からくり櫓(ろ)町火消タイプ：2009年、人形町通りリニューアルとともに完成したからくり時計2基のうちの1基。12時から19時まで1時間ごとに櫓から「は組」の町火消しの人形が出てきて「はしご乗り」と「纏(まとい)上げ」を披露する。

日本橋人形町でミツバチを育てている小笠原メリアンさんは東京穀物商品取引所(以下、東穀)の広報課長。アメリカ生まれだが、日本での生活は長く、日本語は驚くほど滑らか。東穀では2009年6月から地域に根差した活動をと、「日本橋ミツバチ・サロン(日本橋まち)」プロジェクトを開始した。環境の良い場所であれば生きていけないミツバチは、いわば環境パロメーター。現在、在来種ニホンミツバチの数は減少しつつあるといい、人形町から全国に環境メッセージを発信したいの思いいもある。



銀座ミツバチプロジェクトがきっかけで始めたミツバチの飼育。屋上庭園には2台の巣箱が

身近な存在に。そのほか、取引所玄関前では有機野菜の直売を行う「マルシェ」を開き、付属の東穀ホールで寄席やコンサートを開催するなど地道に活動を広げ、地域交流の場をつくりあげている。花の蜜と一緒にミツバチが運び、集めるのは、日本橋人形町の人々の笑顔やまちを愛する思いなのかもしれない。



ミツバチの生態を絵本にして読み聞かせる活動も



有機野菜の直売は不定期だが、水天宮への参拝客が通る戊(いぬ)の日に行われることが多い

人と人をつなぐミツバチはかけがえのない宝物

「ミツバチがきっかけで、地域の人と知り合いになれた」と担当の小笠原さんと天坂さん。コミュニケーションが活発になると、まちがいさききってくる。ミツバチが出会いの場をつくり、信頼関係を築く手助けをしている。



次回(5月号)「東海東京証券のイベントプロモーション」神田さん



日本橋めぐりの会：日本橋・京橋地区のまちづくりを提案・実行・応援する市民の任意団体。日本橋老舗レジャーや「シャッターチャンスプロジェクト」など活動は多岐にわたる。他地域の自治体・事業者と「連携」を企画も数多く、人々との交流の場を作り出している。URL：<http://www.nishinagasaki-requid.com/>